



新成人に2014人

今年の市内の新成人は、男性997人、女性1017人の計2014人。昭和56年4月2日～昭和57年4月1日に生まれた人が今月14日に成人の日を迎えました。

「はたちの願い」作文 河合さんらに優秀賞

市教育委員会が新成人を対象に募集した「はたちの願い」作文・詩に53人から応募がありました。

審査の結果、河合智子さんら10人が優秀賞に選ばれました。

〈50音順・敬称略〉

伊藤秀子(大東町)	上村百合子(大東町)
河合智子(大東町)	小林奈津子(百石町)
高木恵子(今池町)	富高智美(桜井町)
中里美津江(桜井町)	深津真理(東端町)
増田綾子(篠目町)	山田夕加(桜井町)

「私の目標」

河合 智子

「私の二十歳の願い」それは、自分をよく知ることです。私ができるように思い始めたのはつい最近のことです。

私は、今年イギリスに留学をしようという言葉と出会いました。

日本では、その問いに対して「なんとなく」とあいまいに逃げても許されていたけれど、イギリスはそうはいきません。なぜなら英語には「なんとなく」に当てはまる適切な言葉が存在しないからです。だから私は、何かしらの理由を見つけて答える必要があったのです。しかし、今まで「なんとなく」で通してきた私には、その問いに対して適切な返答ができず、自分がいかに自分自身のことについて知らないのかということに気づかされました。

留学にもだいたいは慣れた後半頃、私は、急に英語が聞き取れなくなるという状況に陥りました。彼らに相談しても、WHY? と問い返されるだけで、そのことが分からないから相談しているのに！と焦りと苛立ちから、一向に状況がよくなる私にホストマザーは、「あなたが、なぜ理解できないのかわからないと私たちは、あなたを助けることができない」と助言してくれました。

その一言をきっかけに私は、自分に

真剣に、なぜ? と問い掛け始めました。そうこう考えていると、次第に答えが見えてきました。自分の「語彙」の少なさに原因があることに気づいたので、そのことを彼らに話すと彼らは、少し考えてから「私たちは、徐々に理解していくトモコに対して、はじめの頃のような気遣いをした会話から、家族の一員としての普通の会話へと急に変わったことが、あなたを混乱させてしまったのではないかな」と話してくれました。

この事件は、私と彼らとをさらに近づけてくれる大きなきっかけになりました。なぜなら私は、自分が彼らの家族の一員であることを実感することができ、また私たちは、お互いの意見を交換し合いながら、よりよいコミュニケーションの方法を探し合うようになったからです。同時に私は、言葉をもっと増やすという新しい目標を見つけました。

なぜ? と自分に問い掛けたことが、自分の足元を見つめ直すきっかけとなり、自分が今置かれている状況、自分に今足りないこと、自分が今改善したいと考えていること、だから自分が今しなければならぬこと、相手に協力してもらいたいことを、自分の意見、目標としてしっかり持つことにつながりました。そして結果的には、自分の意見を相手に伝えることで私は、相手を理解してもらうことができ、また相手の考えていることを理解するこ

とができました。

自分で導き出したその答えは、自分を知ることは、お互いを理解することの第一歩であり、自分の新しい目標を見つけることができるということを教えてくださいました。

もし私が、自分に、なぜ? と問い掛けていなかったら私は、自分の「なんとなく」ではない本当の気持ちに気づき、それを彼らに伝えることもできなかっただろうし、彼らのやさしさや自分の新たな目標にも気づくことはなかったのです。

私も2年後には、社会人という社会の歯車の一つとして加わらなければなりません。そこでは、今よりもっとたくさんの歯車が回っていて、その中の歯車がうまく噛み合わないことがいくつも起こっていると思います。

しかしそんな時には、「なんとなく」とか「仕方がない」と思うのではなく、「なぜ」と自分に問い掛けるだけでなく、相手にも「なぜ」と問い掛けることのできる社会人になろうと思います。なぜなら私たちは、その原因を探る努力をしなければ、いつまでたってもうまく噛み合わせることができないからです。つまりお互い理解しあうことができないのです。

今私は、大学2年生です。今私がするべきこと、それは、自分とじっくり向かい合い、自分をよく知り、常に新しい目標を見つけ、達成するために一生懸命努力することだと思っています。